

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372300857		
法人名	株式会社 スエトミ		
事業所名	グループホーム ドリームまつばせ 西棟		
所在地	宇城市松橋町松橋1619-1		
自己評価作成日	平成31年2月25日	評価結果市町村受理日	平成31年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5
訪問調査日	平成31年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設16年を迎えてスタッフもキャリアを積んできている。ご利用者様も重度化の傾向にはあるものの、毎日を穏やかに過ごされている。隣接に保育園もでき、園児との交流があり、ご利用者様の笑顔がたくさん見ることが出来ている現在介護職離れがあるなか、ストレスがたまらない職場作りに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは街中にあり、保育園や小学校が近くにありながら静かな環境の中に位置している。利用者は高齢化が進んでいるものの、ホームを自分の家として優しい職員に支えられ、自分らしさを大切にしながら暮らしている。同一敷地内に保育所が作られ、定期的に園児との交流が持たれたり、年2回、恒例化した日帰り旅行も行われている等、利用者が笑顔で楽しめる機会も多い。食事も心を込めた美味しい手作り料理が提供されており、利用者の大きな楽しみであるとともに活動の源となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内に五つの理念を提示し、職員全員が認識し、日々のケアの中でその都度話し合い、実践につなげている。	ミーティングの折、五つの理念を全職員で確認し、理念に沿ったケアが出来ているか、振り返りを行っている。新人の職員には理念の意図について具体的に説明し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事のゴミ拾いに参加したり、小学校への雑巾贈呈、散歩時の挨拶で交流を図っている。ボランティアの受け入れもあり、中国の伝統的な二胡の演奏を披露していた。	地域行事のゴミ拾いへの参加や、小学校に手作りの雑巾を配布する等の交流が行われている。併設の保育園から園児が遊びに来てくれると、利用者は笑顔いっぱいになる。月1回保育園で行われるリハビリ体操に参加する等の交流も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議でも地域の方に認知症について理解して頂く機会があり、支援内容や事例発表などを行い、報告することで展開し進めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度会議を行い、地域の方、民生委員、行政担当者、GH管理者、入居者様ご家族様の参加がある。会議では、現状報告を行い、意見交換が出来、行政を交え話し合う機会となっている。	運営推進会議は区長や民生委員等多数の参加を得て開催しており、家族代表も交代で参加している。会議では現状報告や活動報告の後、活発な意見交換が行われており、有意義な会議となっていることが伺えた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市担当者の参加があり、事業所の状況を報告し、理解把握していただき、ご意見をいただく等協力関係にある。	ホーム長は毎月市担当課に出向き、利用者の入居状況を提出・報告している。市担当者及び包括支援センター職員が毎回運営推進会議に出席しており、ホームの運営状況について理解と協力が得られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて、全職員が理解して取り組んでいる。離苑の可能性のある方に関しては、玄関の施錠なしで見守りを重視し、自由に生活して頂いている。	研修やミーティングで身体拘束について学んでおり、全職員が拘束のないケアに取り組み、見守り重視のケアを心掛けている。隣接の施設職員もお互いに留意しあい、見守りの協力を得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内での会議で学習し、周知徹底している。日頃から入居者様の尊厳を守り、共に支え合っていく事が虐待の防止につながると考えている。声かけや、言葉遣いについても職員間で話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者やスタッフは、研修会に参加し、学んだ事をミーティング等にて発表し活用できるように繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約のときはホームの内、外を見て頂いて、契約時書類説明して不安のない様、質問を受け納得を得ている。又ホーム内、外の見学にて安心して頂くように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置があるが、利用されている方はいない。面会時等にご家族としっかりとコミュニケーションを図り、日々のふれあいの中で思いを汲み取るように努めている。	家族の面会時、利用者の状況を伝えるとともに、意見要望等がないか確認し対応している。家族会・夏祭り・クリスマス会・食事会等多くの機会を利用して家族とのコミュニケーションを図り、思いをくみ取り支援に繋げるよう心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り、月1回のミーティングを十分に活用し、意見の出やすい仕組みを作っている。また、口頭での報告、連絡、相談を密にするように努めている。	ミーティングでは職員一人ひとりが発言するようしており、ケアの事や困っていることなどを出し合い、検討している。トイレにパットを置く場合は見えないような工夫をするなど、職員の意見を取り入れ、よりよいケアに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者による評価、人事考課、面談にて賞与等へ、努力評価反映している。又資格取得による手当を支給もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地区の研修、勉強会への参加を募り、研修内容についてはミーティング内発表にて情報共有している。職員個々の自己啓発のため、自主的に資格取得を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームの勉強会等で情報交換し交流を持っている。さらに同業者との親睦を深めるため、ミニバレー大会のレクエーションに参加し交流を図った。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人様、ご家族様に見学をしていただき、不安なことや要望等を傾聴し、安心して頂けるような関係づくりに努めている。事前の情報収集を元に、必要なニーズの把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の様子や生活歴、不安な事、要望を十分聞き取り、入居後も日常の様子を報告し、話し合い、共に支え合う信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、ご家族様の意向をしっかりと把握し、サービスを導入する段階で、安心してサービスを受けられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事作業(調理、洗濯、掃除)等は、その方の力量に応じてスタッフと共に行い、ご自分が人の役に立っていることの実感、日々の充実感が持てるよう支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族来訪の際は、居室にてご本人とゆっくり過ごしていただき、絆を大切にし、日頃の様子や体調等報告し、安心して頂けるよう、スタッフ全員実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友だちやお知り合いの方の来訪時にも、ゆっくり会話できるよう居室にて過ごしていただく。また、ドライブ支援し、見慣れた景色や場所への訪問の支援も行っている。	年々、友人・知人の来訪も少なくなっており、通院時の出合いや、通院の帰りに馴染みの場所へ訪問するなどの支援を行っている。法事等に出席して親戚と会ったり、息子さんの美容室へ出かけるなどの支援も行われており、馴染みの場所などとの関係が途切れないように努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	カレンダー塗りやラジオ体操、ゲーム等へ参加していただき、脳の活性化を図るとともに、楽しい時を過ごしていただけるよう努めている。また、利用者間のトラブルが無いよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、その後立ち寄りられたり、他の利用者様を紹介されたりして頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望の品や必需品は一緒に買い物に同行して頂いたり、担当スタッフにて購入し、不便を感じない生活が出来るよう支援している。	何をしてほしいのか、何が言いたいのか等、日常の観察で把握するように心がけている。表情のあまりない方でも、音楽が好きの方はCDをかけると表情が豊かになる。こだわりのある下着などの買い物は一緒に買い物に出かけるなど、思いに沿った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にお宅に訪問し、ご本人、ご家族様との会話の中で生活歴等を詳しく把握している。また、ケアマネから情報をいただき、その人らしい生活が継続できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズム、心身の状態を把握し、小さな変化も気付けるよう注意して、情報共有している。状況変化に応じた対応が出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のミーティングでケアの内容について、入居者様にとって何が重要かを職員間で意見を出し合っており、現状に合った介護計画を作成している。また、各担当でモニタリングを記入してもらい、随時見直しを行っている。	入居者の状況を確認し、ミーティングで話し合いプランを作成し、全職員でプランの評価を行っている。(6か月に1回)。モニタリングは毎月担当が行っている。入居者それぞれにとって何が必要かを考え、役割を持ってもらい、張り合いが出るようなプラン作りを大切にしている。また、寝たきりの人には、苦痛を取り除き笑顔がみられるようなプラン作成を心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア、気付きは個別に記録し定期的に評価を行い、介護計画を見直している。細かな気づき、状態変化も情報共有し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の要望があれば、医療機関への受診、ご家族様と共に付き添い支援し、その時のニーズに合わせて対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に1回開催している運営推進会議では、利用者を代表して1名の方に参加していただくこともあり、自由に発言できる場を設けている。ボランティアの来訪や町内のゴミ拾いに参加し、地域との交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人及びご家族の様の希望に寄り添い、納得が得られたかかりつけ医へ受診が出来るように支援している。又、委託医にて毎月健康管理を図っており、医師と連携をとりながら適切な医療を受けられるよう努めている。	本人・家族の希望に沿ってかかりつけ医の継続も行われている。受診は基本的に家族同行としているが、必要に応じてホーム職員の同行もある。毎月協力医による健康管理が行われ、月2回訪問看護も受けており、健康管理への配慮がみられた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護の際には、日々に関わりの中で気付いた利用者の様子や体調などの変化を伝え、より良い支援のためのアドバイスをいただいている。また、職場内の看護職に相談し、適切な処置及びケアがいち早く出来るように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は面会に行き、医療機関との情報交換を行い連携に努めている。本人様、ご家族様との話し合い、入院による機能低下等見られる場合は、早期退院に向け取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	疾病やターミナルについては方向性をご家族様と話し合いながら、重度化した場合は主治医、訪問看護、ご家族と連携を図りながら、方針を共有しチームで支援に取り組んでいる。H30年11月に看取りケアを行った。	看取りを行う方針であり、重度化した際にホームでできること・できないこと等について入居時に説明し、状況の変化に合わせて再度説明を行っている。協力医の24時間対応や訪問看護師の対応などの協力体制があり、家族の安心に繋がられている。看取り後は振り返りを行い、職員の思いなどを家族に渡し喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて、応急手当や早期対応を行い、日頃より定期的実践力を身に付けるよう訓練を行っている。今後も研修の機会を増やし、実践力を身に付ける必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回に避難訓練(消防署指導の下)入居者とスタッフで戸外までの避難を行い、二部は、消防職員の実施指導でスタッフも消火器の使用法、体験を受けている。又、業者にて定期的にスプリンクラーの点検も実施している。	年2回、昼・夜の想定で、入居者も参加しての総合避難訓練を実施している。出火場所によつての避難場所の確認・避難経路の確認等を行い、戸外までの避難訓練を実施している。業者による消火器やスプリンクラーの点検も実施している。連絡網も作られている。	現在の連絡網は勤務年数順で作成されているが、ホームへ駆けつける時間等を勘案して作成されると、さらに良いのではないかとと思われる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の生活歴や性格をスタッフ全員が把握し、情報を共有することで、利用者を尊重した声掛けや対応をするよう努めている。	研修で学んだことをミーティングで報告して全体で共有し、方言や丁寧語の使い分けなど一人ひとりに合わせた対応をするよう心掛けている。排泄時の言葉かけ等は特に声のトーンにも配慮し、誇りを損ねない対応に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出希望時(買い物やドライブ)は、一緒に出掛け自然との触れ合いや買い物で希望の品を自由に購入できるように、日程の調整等を行い、ご本人が満足できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそつて支援している	居室やホール内のテレビを見たり、他者との会話、散歩とご本人がしたいこと、行きたいところへ自由に行けるよう、その人のペースで日々楽しい生活が継続できるようにスタッフ全員で支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お気に入りの物や服の状態をスタッフ間で情報共有し、洗濯支援や修理等を行い、ご本人へお返しするよう行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備はその方の能力に合わせた作業を提供し、食後は食器洗い、食器拭き、台ふきなど利用者同士スタッフを含め、協力し合いながら片づけを行っている。	ユニットでメニューが異なっており、職員が交代でメニューや材料を考えている。入居者も野菜を切る・米を洗う・炒める・味見をする等、できることを役割として職員と協力しながら行っている。買い物にも各棟一人づつ同行している。旬の物を使い、季節に応じた行事食も作られ、楽しい食事となるよう心掛けている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮した献立を工夫し、一人一人の食事量や形状にて提供している。食事時以外に、カフェオレ、お茶、ポカ리를提供し、状態に応じてアイソトニック、エネーボ等水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々の能力に応じた口腔ケアを行い、観察し、口腔内の状態を把握している。夜間は義歯を外し、洗浄剤を投入し、清潔を心掛けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、必要な方には時間を見てトイレ誘導したり、スタッフへ訴えがあった時は、速やかに誘導を行い、個々に合った対応に努めている。	自尊心に配慮した対応を心掛け、一人ひとりの自立度に応じた支援を行っている。布パンツやパットの利用者など、排泄チェック表を活用した声掛け・誘導で、失敗を少なくする努力をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量に気を配り、ヨーグルトや適度な運動で便秘予防に気を付けている。また、必要時は下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の身体状況に合わせて、週3回の入浴を提供している。身体の状態、状況によって、シャワー浴、清拭を行い、清潔保持に努めている。	週3回の入浴支援が行われているが、状況によりシャワー浴や清拭への変更も行い、清潔保持に努めている。入浴拒否の場合、時間を変更したり声を掛ける職員を変更して対応している。ゆず湯や入浴剤の使用も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や年齢を考慮し、ご本人の意向確認の上、午前または午後には臥床時間を設けている。生活習慣やその時々状況に応じ、安心して気持ちよく休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者それぞれの薬の説明書に職員は目を通し、名前や用法、効果、副作用について把握するよう努めている。又、服薬の際は必ず本人の前で日付と氏名を声に出して確認した上で、確実に服薬が出来るよう見守り、支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や得意なことを把握し、食器洗い、食器拭き、ゴミ出し、裁縫等役割を持つことで、力を発揮でき、楽しく生活できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に配慮しながら、職員と買い物に出掛けたり、散歩、日光浴等行っている。又、事業所行事として年2回の日帰り旅行もあり、外出先では好きな物を購入していただき、楽しみを持って出かけられるように支援している。	気候の良い時期は、近くへの散歩や初詣・花見・夏祭りなど外出の機会を多く設けており、天気や体調に合わせた外出支援が行われている。年2回の日帰り旅行も実施されおり、お土産を買う等の楽しそうな笑顔が多く写真で伺える。寝たきりの人も日光浴などで外気に触れ、季節を感じる取り組みが行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方には、少額づつ管理していただき、希望があれば職員と一緒に掛け、必要な物を自由に買い物できるように支援している。購入の際は、購入の品、金額等の把握に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話の取次ぎを行っている。遠方のご家族より定期的に手紙が届く方には、返信用のはがきの提供や電話の取次ぎ支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には四季折々の花が飾られ、フロア装飾には写真を掲示したり、四季に応じて塗り絵、書道など利用者の作品を展示し、空間演出を行っている。照明は適度な明るさを保ち、冬場は加湿器を使用し、温度、湿度に配慮している。	玄関では四季の花や雑飾りに迎えられ、リビングにはソファや木製のイスが随所に置かれている。壁面には入居者の写真や作品が飾られており、好きな場所で気の合う人とのおしゃべり等、居心地よく過ごすことができる空間となっている。照明や温度・湿度にも配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TV前、キッチン前にソファを設置し、親しい利用者同士、TV視聴やおしゃべりなどされたり、テーブルを囲みレクレーション、家事手伝いをしていただき、利用者の意向、体調に応じて思い思いに過ごしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居の際、思い出深い使い慣れた家具、小物を家族に用意していただき、自室に近い環境で過ごしていただけるようにしている。また、居室には、ご家族の写真、お孫様の写真を飾っている。	どの部屋も明るく、外の景色を見ることが出来る。上着・下着など、衣類の種類を引き出しに記入して収納しやすく工夫されたタンスや、テレビ等が持ち込まれている。また、仏壇が置かれた部屋もあり、お水・花等欠かさずお供えしお参りも欠かさず行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お風呂、トイレは認識できるように明示し、フロア内には手すりを必要に応じて設置し安全面の配慮を行っている。又、各居室には、本人の写真、名前の記載されたプレートをかけて、タンスにも入れる場所に応じた札を貼り、整理しやすくしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372300857		
法人名	株式会社 スエトミ		
事業所名	グループホーム ドリームまつばせ 東棟		
所在地	宇城市松橋町松橋1619-1		
自己評価作成日	平成31年2月25日	評価結果市町村受理日	平成31年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5
訪問調査日	平成31年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設16年を迎えてスタッフもキャリアを積んできている。ご利用者様も重度化の傾向にはあるものの、毎日を穏やかに過ごされている。隣接に保育園もでき、園児との交流がありご利用者様の笑顔を沢山見ることが、出来ている。現在介護職離れがあるなか、ストレスが溜まらない職場作りに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	五つの理念を提示し、職員全員が認識し共有実践につなげている。ミーティング等にて定期的に読み上げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流やボランティア等来訪していただき、演奏会を開催、散歩時も近隣方との挨拶を交わし交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて入居者の状況や出来事、支援内容について活動報告することで展開し進めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1回行い、毎回活動報告などすると共に様々な取り組みについても意見交換を行いサービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は毎月の報告実施、又担当者の方から入居者さまの現状について意見や質問を求められた時は、正確な内容を提供し協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に関する研修会に参加し、スタッフ全員の周知徹底に努め拘束のないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会は必ず数名参加している。ミーティング等にて勉強会を開き、周知徹底に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者やスタッフは、研修会に参加し、学んだ事をミーティング等にて発表し活用できるように繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約のときはホームの内、外を見て頂いて、契約時書類説明して不安のない様、質問を受け納得を得ている。又ホーム内、外の見学にて安心して頂くように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設けている。面会時や事業所の行事参加時に家族からの意見や要望を聞いている。出た意見は申し送りノートやミーティングで報告し全職員で共有している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで積極的に意見を求めると共に日頃から連絡ノートや口頭での報告、連絡、相談を密にするように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者による評価、人事考課、面談にて賞与等へ、努力評価反映している。又資格取得による手当を支給もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地区の研修、勉強会への参加提供し、スキルアップを図っている。内容についてはミーティング内発表にて情報共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームの勉強会等で情報交換し交流を持っている。さらに同業者との親睦を深めるため、ミニバレー大会のレクエーションに参加し交流を図った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際に入居前のケアマネージャーさんから情報を得たり、ご本人より入居にあたり不安なこと希望等をお聞きし、新しい環境の中で安心して生活出来る様、寄り添いながら支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に関しては、御家族がどのような事で困惑されていたか、きちんと耳を傾けホームでのサービスに対する情報を明確にし、家族様にも協力していただける様に伝えておく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自施設以外のサービスとしてつき1回の往診や月2回の訪問看護、訪問歯科も提供されている。御家族の要望により、かかりつけ医の往診も出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活と同様な生活が出来るようお一人お一人に役割意識を持ち、生きがいややりがいを持って頂けるように、寄り添いながら支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族に安心して頂けるよう、毎月の日頃の様子を写真入りで報告しており、来訪時は体調や生活情報をスタッフで共有し詳しく提供出来る様、努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の御家族や馴染みの方々が来訪された際は、スタッフも会話に入ったり、ゆっくり過ごしている環境作りに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士が会話をされたり、歌われたり見守り行い、スタッフの一緒に入り楽しい時間を過ごして貰える様に努めている。トラブルが起きそうなときは、みまもりや仲裁で不快な気持ちにならないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、その後立ち寄りされたり、他の利用者様を紹介されたりして頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さまや御家族の希望や意見を考慮しながら支援している。相談ごとや心配ごと等御家族が安心されるよう気持ちをくみながら支援を続けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時御家族への聞き取りを行いフェースシートを作成し、情報を共有している。モニタリングにて適切なサービスが出来るように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の介護経過記録に一日の様子気づきをそれぞれのスタッフが記録し心身状態や有する力等の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画に関してはその時の必要なケアを本人様、御家族等に意見や要望をお聞きしチームケアにて作成している。作成後は説明し、御家族の思いも聴いている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護経過記録に日々の様子や気づきを記録しスタッフで共有しながら実践やケアプランの見通しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	四季の行事を行い、お一人お一人が五感を感じて頂ける様努めている。(初詣・花見、夏祭り、苺狩り、敬老会、クリスマス会等)		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に運営推進会議を行い、地元の子どもの方々との交流を通してホームのあり方を共有して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	急変が見られたあら、御家族への報告を行い状況に応じて、受診に繋げている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護の際、個々の利用者の様子や体調を報告し、アドバイスを頂いている。又、職場内の看護職に相談し適切なケアが出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、環境が変化すると不穏なられない様、定期的お見舞いに伺い、スタッフ間での報告を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルを行われる場合は、最後まで看取れるよう、スタッフ一丸となって支援を行い、御家族にも喜んでいただいた。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故の際は、状況を把握し、初期の手当てを行い、スタッフの連携を計り、ホーム長への連絡を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練で一部は入居者とスタッフでの戸外までの避難を行い、二部は消防士の方の指導でスタッフは消火器の使用体験を受けている。又、スプリンクラーの定期的な点検もして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴や性格を把握し利用者 を尊重した声かけや対応するように心掛けて いる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	各個人様の声を聞いてなるべく可能な支援 を行う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者9名それぞれの個性を見極めコミュニ ケーションを図り日々の生活をして頂く。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	起床時の着替えと毎日替えておしゃれを保 つ、本人様の身だしなみ支援を行う。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	毎食三食食事も皆でそろって頂き、会話の中 にスタッフも一緒に楽しみながら支援行う。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	利用者様にあった食事で刻み、ミキサー食、 ご本人様が摂取しやすい形体にしている。 水分補給もご本人様ご好まれるものを提供 している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後の口腔ケア、声かけや介助、確認を 行い、夜間は義歯消毒をし口腔内の清潔に 努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンやリズムの把握に努めており、声かえや誘導等その都度おこなっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や特に根菜類の摂取に努めている。又、飲み物を体調に合わせて変える等し水分補給を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の気分や体調を汲み取り、入浴の順番や時間帯の配慮を行っている。シャワー浴や足浴など個別に応じた支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し、体調や状況により自由に休息できるように支援している。ゆっくりと安眠できるように見守り重視している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の内容を把握しており、処方内容の変更時は職員間で情報の共有を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や得意なことを把握し、家事作業での手伝いや役割を持つことで、力を発揮し、充実した生活を送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に配慮に配慮しながら、職員と買物に出かけたり、散歩、日光浴等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時50000円預かり、その都度御家族に補充していただき、買物動向の折等本人様に買物を尋ねている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への要望があれば、取り次ぎ支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月の御家族への新聞便りを提示したりして季節感を味わって頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	Dルームにおいて見守り対応し仲よし同士でテーブル席にて過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族がみえられたときはゆっくりと話せる空間を作っている、家で使っていた物等を持ってきて頂く。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室トイレに手すりを設置し潜在力を高めている。		